

誤

2) 改めて、アクション波とリアクション波について

34 ページで説明したように、アクション波はメジャートレンドの方向（一回り大きな波動と同じ方向）の波動のこと、リアクション波はメジャートレンドとは逆方向の波動のことです。

ここで、この2種類の波の区分けについて練習してみましょう。

図1-9のカとキで示した波動はアクション波とリアクション波のどちらでしょうか。

どちらも、それらより一回り大きな上昇波動の副次波ですから、その中で上昇しているカはアクション波、下落しているキはリアクション波、ということになります。

では、ク、ケで示した波動はどうでしょうか。

ク、ケの波動を副次波として含む一回り大きな波動は下落波動ですから、上昇波動のクはリアクション波、下落波動のケはアクション波、ということになります。

「上向きの波動がアクション波で、下向きの波動がリアクション波」ではなくて、あくまでも一回り大きな波動と同じ向きならアクション波、一回り大きな波動と逆向きならリアクション波となります。

そして、アクション波とリアクション波に関するもうひとつ重要な特徴は、アクション波は5波動構成、リアクション波は基本的に3波動構成、ということです。

5波動構成というのは、5つの副次波によって構成されているということですし、3波動構成というのは3つの副次波によって構成されている、ということです。

正

2) 改めて、アクション波とリアクション波について

34 ページで説明したように、アクション波はメジャートレンドの方向（一回り大きな波動と同じ方向）の波動のこと、リアクション波はメジャートレンドとは逆方向の波動のことです。

ここで、この2種類の波の区分けについて練習してみましょう。

図1-9のカとキで示した波動はアクション波とリアクション波のどちらでしょうか。

どちらも、それらより一回り大きな上昇波動の副次波ですから、その中で上昇しているカはアクション波、下落しているキはリアクション波、ということになります。

では、ク、ケで示した波動はどうでしょうか。

ク、ケの波動を副次波として含む一回り大きな波動は下落波動ですから、上昇波動のクはリアクション波、下落波動のケはアクション波、ということになります。

「上向きの波動がアクション波で、下向きの波動がリアクション波」ではなくて、あくまでも一回り大きな波動と同じ向きならアクション波、一回り大きな波動と逆向きならリアクション波となります。

誤

◆ダイアゴナル

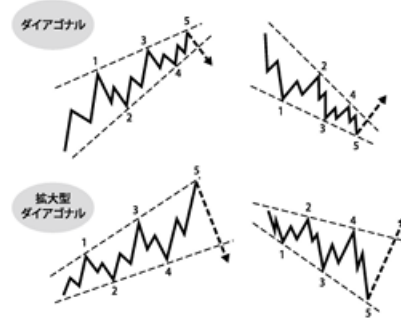
3-3-3-3-3ないし5-3-5-3-5という5波動構成で、振幅が徐々に小さくなりながら上下のどちらかに突き出すエッジ型と呼ばれる波を指します（図1-17）。

通常は4波が1波の範囲に食い込んでおり、この点がインパルスとの大きな違いです。

また、しばしば振幅が大きくなる拡大型ダイアゴナル（エクスパンディングダイアゴナル）も出現します。

ダイアゴナルは1波やA波など最初の波か、5波やC波など最後の波として出現します。インパルスの真ん中の波である3波としては出現しません。

図1-17 ダイアゴナル



※ダイアゴナルはもともとダイアゴナルトライアングルと呼ばれ、エリオット自身はトライアングルの一種として分類していました。現在、ダイアゴナルは推進波の一種と考えられており、トライアングルの一種とは考えられていません。呼び方もトライアングルのをはずして単にダイアゴナルと呼ぶのが慣例になっています。本書でも最近の慣例にならって単にダイアゴナルと呼びます

正

◆ダイアゴナル

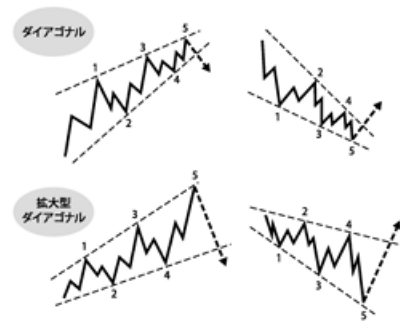
3-3-3-3-3ないし5-3-5-3-5という5波動構成で、振幅が徐々に小さくなりながら上下のどちらかに突き出すウェッジ型と呼ばれる波を指します（図1-17）。

通常は4波が1波の範囲に食い込んでおり、この点がインパルスとの大きな違いです。

また、しばしば振幅が大きくなる拡大型ダイアゴナル（エクスパンディングダイアゴナル）も出現します。

ダイアゴナルは1波やA波など最初の波か、5波やC波など最後の波として出現します。インパルスの真ん中の波である3波としては出現しません。

図1-17 ダイアゴナル



※ダイアゴナルはもともとダイアゴナルトライアングルと呼ばれ、エリオット自身はトライアングルの一種として分類していました。現在、ダイアゴナルは推進波の一種と考えられており、トライアングルの一種とは考えられていません。呼び方もトライアングルのをはずして単にダイアゴナルと呼ぶのが慣例になっています。本書でも最近の慣例にならって単にダイアゴナルと呼びます

誤

また、プレクターは『エリオット波動入門』で、「われわれはエリオットの手法では満身にカウントできないサブミニエット級以上の波動を見つけることはできない」と言っています。

しかし、1分足までのチャートが誰にでも入手できるようになった現在、小さな波動をカウントしようとする、従来の波形だけでは満身にカウントできない波動が頻繁に見つかるようになってきました。1分足のチャートで確認できる波動とは、具体的にはサブマイクロ級やミニスケール級、あるいはまだ正式名称すら与えられていないさらに小さなディグリーの波動になります。

それに対応するため、日本エリオット波動研究所で波動データの収集と観察および分析を重ねた結果、ダブルジグザグのW波の位置にジグザグの代わりにダブルジグザグが出現することもある、ということが分かってきました。それを二重のダブルジグザグと呼びたいと思います。

図2-31 二重のダブルジグザグ



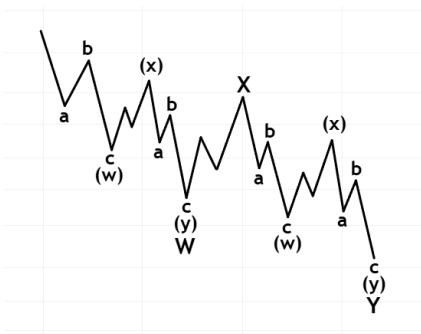
正

また、プレクターは『エリオット波動入門』で、「われわれはエリオットの手法では満身にカウントできないサブミニエット級以上の波動を見つけることはできない」と言っています。

しかし、1分足までのチャートが誰にでも入手できるようになった現在、小さな波動をカウントしようとする、従来の波形だけでは満身にカウントできない波動が頻繁に見つかるようになってきました。1分足のチャートで確認できる波動とは、具体的にはサブマイクロ級やミニスケール級、あるいはまだ正式名称すら与えられていないさらに小さなディグリーの波動になります。

それに対応するため、日本エリオット波動研究所で波動データの収集と観察および分析を重ねた結果、ダブルジグザグのW波の位置にジグザグの代わりにダブルジグザグが出現することもある、ということが分かってきました。それを二重のダブルジグザグと呼びたいと思います。

図2-31 二重のダブルジグザグ

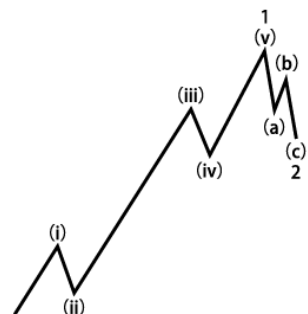


誤

ダブルジグザグが出現する位置は、ジグザグが出現する位置と同じです。ダブルジグザグはジグザグの代わりに出現する波形であることを考えると、これは当然のことと思われず。ただし、ダブルスリーやトリプルスリーのアクション波にはダブルジグザグは出現しません。

ダブルジグザグがジグザグの代わりに出現するのは、ひとつのジグザグだけでは十分なりトレースができなかった場合であると考えられます。例えば図2-29のようにインパルスの1波が完成した後に、反対向きのジグザグ(a)-(b)-(c)が出たとします。この場合、このジグザグだけではインパルスの1波を十分にリトレースしているようには見えません。このようにときに、2波が図2-30(次ページ)のようにダブルジグザグに発展することがよくあります。

図2-29 ジグザグの価格修正が小さいケース

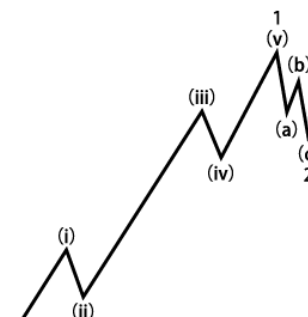


正

ダブルジグザグが出現する位置は、ジグザグが出現する位置と同じです。ダブルジグザグはジグザグの代わりに出現する波形であることを考えると、これは当然のことと思われず。ただし、ダブルスリーやトリプルスリーのアクション波にはダブルジグザグは出現しません。

ダブルジグザグがジグザグの代わりに出現するのは、ひとつのジグザグだけでは十分なりトレースができなかった場合であると考えられます。例えば図2-29のようにインパルスの1波が完成した後に、反対向きのジグザグ(a)-(b)-(c)が出たとします。この場合、このジグザグだけではインパルスの1波を十分にリトレースしているようには見えません。このようにときに、2波が図2-30(次ページ)のようにダブルジグザグに発展することがよくあります。

図2-29 ジグザグの価格修正が小さいケース

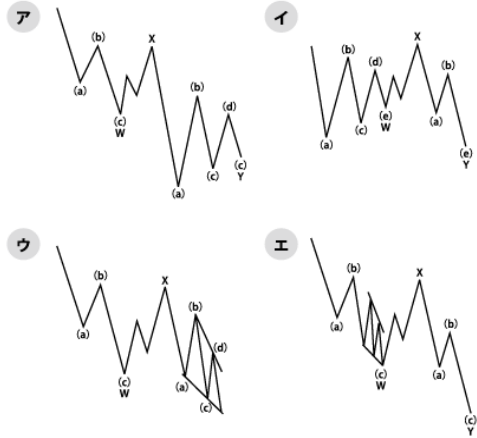


誤

5) 複合修正波の知識の確認問題

以下の4つのケースで、複合修正波のカウントとして適当と思われるものには○、間違っていると思われるものには×を付けてください。

図2-84



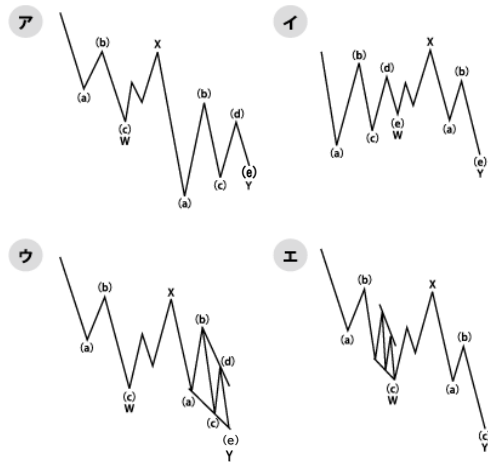
数分間、考えてから次ページに進んでください

正

5) 複合修正波の知識の確認問題

以下の4つのケースで、複合修正波のカウントとして適当と思われるものには○、間違っていると思われるものには×を付けてください。

図2-84



数分間、考えてから次ページに進んでください

誤

6) ガイドラインに照らしてカウントの有効性を検討する

次に、このカウントの有効性をガイドラインに照らして検討してみます。

まず、インパルスにおいて、「2波は1波を深くリトレースする」というガイドラインとの適合性を見ましょう。このガイドラインは特に2波がジグザグ系の修正波の場合に適用されるものです。

次の図4-12のチャートでは、2波がジグザグ系の修正波で、1波を深くリトレースしているものは実線、そうでないものは点線で囲みました。

図4-12 カウントの検証1 インパルスの2波のトレースは深いか



正

6) ガイドラインに照らしてカウントの有効性を検討する

次に、このカウントの有効性をガイドラインに照らして検討してみます。

まず、インパルスにおいて、「2波は1波を深くリトレースする」というガイドラインとの適合性を見ましょう。このガイドラインは特に2波がジグザグ系の修正波の場合に適用されるものです。

次の図4-12のチャートでは、2波がジグザグ系の修正波で、1波を深くリトレースしているものは実線、そうでないものは点線で囲みました。

図4-12 カウントの検証1 インパルスの2波のリトレースは深いか

